

巻 頭 言

細菌性髄膜炎の予防ワクチンについて

塩 見 正 司

(愛染橋病院 小児科部長)

【自己紹介】

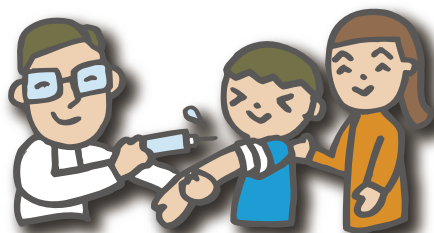
平成23年4月から愛染橋病院小児科で診療を行っています。1976年に医師となり、愛染橋病院では1978年～1979年の間、西村和彦小児科部長の指導をいただきました。その後は大阪市立桃山病院感染症センターと大阪市立総合医療センターで小児の感染症、神経疾患、救急疾患などを担当してきました。当院の小児科は総合周産期母子医療センターのNICUとして取り扱い患者数や治療成績において近畿圏ではトップクラスの実績をあげています。私は一般小児科を担当しております。今後ともよろしくお願いいたします。

【細菌性髄膜炎とヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンについて】

小児の救急疾患では高熱、意識障害、けいれんをきたす感染症が少なくなく、予後不良例もあり、緊張を強いられます。中でも細菌性髄膜炎は早期の抗生物質の静脈内投与が必要であり、診断の遅れは許されません。細菌性髄膜炎は乳幼児期に多く、咳や鼻汁といった感冒症状は少なく、このように、乳幼児の高熱を来す病気で感冒症状がないとなれば、突発性発疹症という、ほぼ全員が罹患するヒトヘルペス6型感染症があります。突発

性発疹症の特徴は、高熱に比し、元気があり、食欲もあり、軽い下痢がある、ということです。細菌性髄膜炎の原因となるb型インフルエンザ菌(ヒブ)や肺炎球菌は保育所などで感染し、上気道に定着しますが、多くは、症状をだしません。そして、家庭内に持ち込まれ、弟や妹などの家族の上気道にも感染し、時には血流に入って菌血症を生じ、一部は髄膜炎を発症します。この菌血症、細菌性髄膜炎と突発性発疹症の鑑別がなかなか難しいです。

以前、経験した症例を紹介します。ヒブワクチン自費接種済の10カ月の男児が高熱を出し、近くのベテラン小児科医の診療所を受診し、突発性発疹症が疑われたものの、翌日、元気がないので市民病院の小児科当直医に電話で相談し、ただちに受診をすすめられました。結局、保護者は別のベテラン小児科医を受診し、突発性発疹症といわれました。翌朝、けいれん、昏睡で急変し、重度の後遺症を残しました。病気は小児用肺炎球菌ワクチン(プレベナー)に含まれていた血清型の肺炎球菌による髄膜炎でした。この症例では発熱初期に有効な抗生物質の静脈内投与のチャン



スがあり、さらには、自費でプレベナーの接種をうけることも可能でした。しかし髄膜炎の早期診断は難しいし、ヒブとプレベナーの両者を自費で受けた乳児はわずかです。

平成22年11月「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例交付金」事業により、平成23年2月から、平成24年3月までの期間限定ながら、ヒブとプレベナーが任意接種で全額補助(大阪市)となりました。生後2カ月から開始し、3種混合ワクチンとヒブ、プレベナーの3本同時接種が基本となります。米国では、さらに、B型肝炎ワクチン、不活化ポリオワクチンが加わり、5本同時接種のようです。ヒブの接種率が90%近くになれば、いずれ、地域からヒブの保菌者が激減し、少数の未接種者も感染することが稀になります。これを集団免疫効果とよびます。プレベナーについても高齢者が孫から感染する肺炎球菌性肺炎が減少することが証明されています。肺炎球菌の血清型は90を超えており、プレベナーは髄膜炎に多い7血清型をカバーしていますが、米国ではすでに13血清型をカバーする製品(プレベナー13)が発売されています。ワクチンは開発に10年間500億円かかる製品といわれますが、集団免疫効果は接種率にかかっています。米国ではワクチンは義務、オーストラリアは全て接種すると手当が支給される、など、接種率をあげる工夫が必要ですが、わが国では、当面、保護者への啓発を繰り返すことが重要です。

次世代を担うこどもをワクチンで予防できる病気(Vaccine Preventable Disease、VPD)に罹患しないようにする、というのが、我々の役割だと思います。

理事会報告



◎平成23年度9月定例理事会

日 時 平成23年9月16日〈金〉

午後8時～9時25分

場 所 浪速区医師会 会議室

協議事項

1. ハーバータウンクリニックの開設について

＜佐久間会長＞

大野記念病院のサテライトとして、標記クリニックを開設したいとの申し出があった。

詳細は次のとおり。

名称 医療法人寿楽会 ハーバータウンクリニック

場所 浪速区湊町1-2-3 マルイト難波ビル3F

開設日 11月1日

(保険診療開始 12月1日～)

管理医師 崔 吉永

(現 大野記念病院内科部長)

標榜科目 腎臓内科(人工透析)

協議の結果、入会を了承。

2. 大阪市立中学校におけるMRワクチン(3期)集団的個別接種実施について

＜佐久間会長＞

標記接種実施に関し、区内3校(難波中学校：金田理事、日本橋中学校：本田医師、木津中学校：工藤副議長)の内科校医に接種医として了承を得ていたが、府医より、各校の接種希望者が多い場合には、各校2名以上の接種医が必要になる可能性もあるとのことから、各校1名の接種医の追加協力依頼があった。本会としての対応を協議したい。

協議の結果、3名の内科校医以外に協力できる医師がないことから、追加の接種医が必要になった場合は、府医に依頼することに決定。

3. 一般社団法人への移行に伴う定款変更案について <澤井副会長>

資料にもとづき検討、原案どおり了承。

4. ブルーカードシステム参加料の徴収規定について <久保田理事>

標記参加料等は、次のとおり決定しているが徴収規定を決めたい。

ブルーカードシステム参加料	
月額1,000円	
ブルーカードシステム事務手数料	
1～5件	無料
6～20件	1,000円
21～50件	2,000円
51件以上	3,000円

協議の結果、次のとおりに決定。

- ・ブルーカードの登録があった日を起算月とし、参加料を徴収する(日割り計算はしない)。
- ・ブルーカードの登録が1枚もない場合は、参加料は徴収しない。
- ・毎月1日現在のブルーカードの登録数により、事務手数料を請求する。
- ・請求は年3回、4月～7月(1期)、8月～11月(2期)、12月～3月(3期)とし、各期末の15日までに請求し、支払方法は振込または現金する。

5. 地域産業保健センター事業における相談窓口等の開設について <金田理事>

資料のとおり、健康相談窓口の開設と出務医師派遣依頼があった。

本会で行う健康相談窓口については、昨年度までは毎月1回の実施であったが、今年度は、月2回程度の実施依頼である。報酬は2時間23,000円。

協議の結果、10月より、毎月第1火曜日と第3金曜日に開設することに決定。大丸デパートでの健康相談窓口への医師派遣も含めて、産業医から募集することとする。

6. キャリアリンク(株)の産業医派遣依頼について <金田理事>

標記事業所より、産業医の派遣依頼があった。

事業所名 キャリアリンク(株)
代表者名 近藤裕彦
所在地 浪速区元町1-2-17 エスペラントビル5F
職 種 人材派遣業

協議の結果、岡藤理事に決定。

7. その他
なし。

報告事項

1. 大阪市医師会連合会委員会について
(9月12日<月>) <佐久間会長>

次第は次のとおり。

▷連絡事項

- (1)地域支援事業実施要綱の一部改正に伴う「介護予防健診等実施マニュアル」改訂に関する件
- (2)子宮頸がん予防・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチン接種委託料の件
- (3)平成23年度大阪市インフルエンザ予防接種委託料並びに震災対応の件
- (4)大阪市働く世代への大腸がん検診推進事業の件
- (5)東日本大震災被災者にかかる大阪市健康診査事業の件
- (6)大阪市がん検診委託医療機関との連携事業の件
- (7)大阪市立中学校におけるMRワクチン(3期)集団的個別接種の件

▷報告事項

- (1)大阪市地域包括支援センター運営協議会(8月10日)報告の件
 - (2)大阪市地域密着型サービス運営委員会(8月29日)報告の件
 - (3)大阪市立市民病院経営検討委員会(8月31日)報告の件
 - (4)大阪市高齢者施策推進委員会保健福祉部会(8月31日)報告の件
 - (5)大阪市高齢者施策推進委員会介護保険部会(9月2日)報告の件
- (詳細 略)

2. 大阪市東部保健医療協議会について

(9月15日<木>) <佐久間会長>
次第は次のとおり。

▷開会

▷議題

- (1)大阪府保健医療計画の進捗状況について(大阪地域分)
 - (2)その他
- ▷報告事項
- (1)大阪市内における地域連携クリティカルパスの導入状況について
 - (2)保健医療企画の改訂について
 - (3)その他

▷閉会

(詳細 略)

3. 郡市区等医師会「公益法人制度改革」担当理事・実務担当者説明会について

(9月1日<木>) <澤井副会長>
次第は次のとおり。

▷開会

▷挨拶

▷説明

- (1)「定款 大阪版日医モデル」についての留意点
- (2)「定款対照表 大阪版日医モデル」の利用方法
- (3)会計 旧基準と平成20年基準の併用について
- (4)申請書作成上の留意点

▷連絡

▷質疑

▷総括

▷閉会

(詳細 略)

4. 第6回法人改定委員会について

(9月14日<水>) <澤井副会長>
一般社団法人定款変更案について検討を行った。
申請時の提出書類一式(会計、定款等)を揃え、内容を確認して頂くため、大阪府に送付する。

5. 大阪市内医師会救急医療担当理事連絡協議会について(7月28日<木>)

<原田理事>

次第は次のとおり。

▷開会

▷挨拶

▷議事

- (1)大阪市急病診療 平成22年度診療実績等について
- (2)平成23年度下半期分中央急病診療所 出務医師割当(案)について
- (3)その他

▷閉会

(詳細 略)

6. 郡市区等医師会救急医療担当理事連絡協議会について(7月28日<木>)

<原田理事>

次第は次のとおり。

▷開会

▷挨拶

▷出席者紹介

▷議事

- (1)平成22年度 大阪府医師会「救急・災害医療対策」事業報告について
- (2)平成23年度「救急の日」および「救急医療週間」行事実施要綱について
- (3)平成23年度救急医療研修会の開催について

- (4) 東日本大震災における J M A T 活動について
- (5) 大阪府救急医療機関災害対応標準マニュアルの活用について
- ▷その他
- ▷閉会

(詳細 略)

7. 災害医療シンポジウムについて

(9月8日<木>) <原田理事>
次第は次のとおり。

▷開会

▷シンポジウム

座 長 大阪府医師会 救急・災害医療部
部 長 茂松茂人
副部長 西本泰久
テーマ 「東日本大震災における各災害医療チームの活動と今後の課題」

(1) 日本DMA Tの活動について

医療法人 徳州会 岸和田徳州会病院
救急救命センター 部長 鍛冶有登

(2) 東日本大震災における J M A T 大阪府医師会チームの一員としての活動報告

枚岡医師会
金澤クリニック 院長 金澤秀介

(3) 医療支援チーム(大阪府医師会チーム)を支援する活動について

社会医療法人 愛仁会
愛仁会リハビリテーション病院
リハビリテーション科 部長 富岡正雄

(4) 災害支援ナース活動に参加して

関西医科大学附属枚方病院
手術部 手島真理子

(5) 薬剤師としての活動と今後の課題

社団法人 大阪府薬剤師会
理事 宮田憲一

▷閉会

(詳細 略)

8. 「ブルーカードについて」のアンケート

結果について

<久保田理事>

62医療機関中41件より回答があった。
回答内容は次のとおり。

質問1 ブルーカードシステムについて
「よくわからない」5件

「理解している」36件

この36件のうち、14件がブルーカードの適応患者がいないとのこと。

質問2 今後の意向について

ほとんどの医療機関がブルーカードシステムに協力したいとの回答であった。

9. ブルーカードの説明会について

(8月29日<月>) <久保田理事>

次第は次のとおり。

▷あいさつ

▷第一部 ブルーカードシステムの説明

(1) ブルーカードシステムの現状について

(2) ブルーカード実例報告について

(3) ブルーカードマニュアルについて

▷第二部 iPadの使用方法和医療に関する利用方法

参加者数は、本会22名、他地区医師会14名、業者2名の38名であった。

10. 薬業連携の会について(9月3日<土>)

<久保田理事>

浪速区の調剤薬局、病院の薬剤師が集まり開催される連携の会に出席し、「ブルーカードについて」という演題で講演を行った。

11. 救急医療情報交換会について

(9月12日<月>) <久保田理事>

次第は次のとおり。

▷消防署長あいさつ

▷出席者紹介

▷救急概要の説明

▷応急手当普及啓発活動について

▷意見交換(救急業務の実情について・

救急隊及び救急業務に対する要望)

▷その他

(詳細 略)

12. 健康展実行委員会・福祉ふれあい広場実行委員会合同委員会について

(9月8日〈木〉) <岡藤理事>

次第は次のとおり。

▷日時・実施場所について

▷両行事のキャッチフレーズについて

▷会場配置について

▷舞台タイムスケジュールについて

▷ポスターについて

▷所要経費の負担の考え方について

▷抽選会について

▷その他

13. 敬老の日(9月19日〈月・祝〉)について

<岡藤理事>

資料のとおり、例年同様、敬老会員(22名)へ図書カード5,000円分贈呈した。

14. その他

なし。

次回会議 平成23年10月14日〈金〉午後2時～



9月度 学術講演会報告

学術担当理事 橋本 久仁彦

日 時 9月17日〈土〉午後2時

演 題 「心電図QRS波の異常 その2」

講 師 国立循環器病研究センター

心臓血管内科 医長

相原 直彦 先生

出席者数 26名

共 催 第一三共(株)

情報提供 レザルタスの最新の話

本講演は、相原直彦先生による心電図講義のシリーズである。前々回より心電図の基礎に戻りP波の異常から開始し今回はQRS波の異常について講義して頂いた。今回も引き続きQRS波の異常について解説された。

1. 前回の復習(QRS波の成り立ちと右脚ブロック・左脚ブロック)

QRS波は心室の興奮を表現している。心室中隔の興奮の始まりは左から右に起こるのでQ波は小さな陰性部分となる。R波の上昇部分は心室中隔全体の興奮でありR波の下降部分は心尖から心室の自由壁全体に至る興奮を表す。そして心室基部の興奮は小さなS波として表れる。

QRS波の異常は、幅が広がる異常と幅が正常な異常の二つに分類できる。幅が広がる異常は、PR間隔が延長する(もしくは正常な)異常とPR間隔が短縮する異常に分類される。PR間隔が延長する(もしくは正常な)異常には右脚ブロックと左脚ブロック、そして心室内伝導障害がある。PR間隔が短縮する異常は、早期興奮症候群であり代表はWPW症候群である。幅が正常な異常には、高さの異常とQ波の異常がある。

右脚ブロックの診断のポイントは、右室の興奮が遅れるため左向きの興奮を陽性と表現するI誘導およびV6誘導において深いS波

を認めることである。また左脚ブロックの診断のポイントは、左室の興奮が遅れるためV6誘導においてR波上昇部分が幅広くなることである。QよりR波の頂点までの時間が、正常の場合は50msec以内だが左脚ブロックの場合は70msec以上となる。つまり心電図において小さなマス2つ(80msec)以上あれば明らかに異常と判断できる。よって脚ブロックの診断においては、V6に注目することが重要である。

臨床的重要性は、右脚ブロック<左脚ブロックと言える。何故なら、右脚は1本のみ存在し細いため元来脆弱である。左脚は前枝・中隔枝・後枝の3本からなり太くネットワークを形成しており簡単には障害されない。このことから左脚ブロックの存在は、重大な心筋の障害を意味するのである。また、右脚ブロックのみでは軸は正常だが左前枝ブロックが併存すると左軸偏位を示す(前枝ブロックの場合、中隔の伝導は後から前上方に伝わる)ため、右脚ブロックに左軸偏位を認める場合も重症である。

2. 加算平均心電図

軽度のQRS波の異常は、通常的心電図においては明らかではないことがある。この場合、加算平均心電図を解析すると、異常を認識することができる。国立循環器病研究センターにおいてはQRS波の異常を疑う場合は、必ず加算平均心電図を施行する。X誘導(I誘導に相当する)、Y誘導(II・III誘導に相当する)、Z誘導(V1・V2誘導に相当する)のQRS波を加算し平均することでノイズが消えて定常的な波だけが残存するのである。最も重要なパラメータはQRS持続時間(filtered QRS duration)である。何故なら、この持続時間が長くなると不整脈が容易に出現するからである。正常な持続時間は、120msecまでである。ただし、本邦において陽性的中率は余り高くなく陰性的中率が高いことが判明している。つまり、「異常なら心配である」と言うより、「正常なら問題が無い」ということである。ただし、相原先生の研究によると拡張型心筋症において持続時間の延

長は心室頻拍と心疾患死に有意に関連することが示されている。

3. WPW 症候群

次にQRS波の幅が広がるがPR間隔が短縮する異常の代表は、WPW症候群である。先天的には1000人に1人は認められる異常である。ケント束が心房と心室を連絡していることで早期に心室が興奮する。この興奮がデルタ波として表現される。なお、マハイム束は右室にのみ存在し、かつて存在するとされていたジェームズ束は現在存在しないことがわかっている。ケント束が右室に存在すると、洞結節が右房に存在することから最も早く興奮が伝達されるためデルタ波が最も顕著となる。逆にケント束が左室の端に存在するとその伝達は遅くデルタ波は目立たないこともある。これをmasked Kentと呼ぶ。またケント束は通常は両方向性であり、これをmanifest Kentと呼ぶ。心室から心房にのみ伝達される逆方向のみの場合もあり、これをconcealed Kentと呼ぶ。心室から心房に伝達された興奮が、再度房室結節を経て心室に至るので、この回路がぐるぐると回ると房室回帰性頻拍となる。これが、最も頻度の高い不整脈である。なお、WPW症候群の患者が心房細動となった場合は、偽性心室頻拍となるため心室頻拍との鑑別が重要である。予防として、クラスI薬と弱いカルシウム拮抗薬が重要である。

4. 心電図判読

WPW症候群について、実際の心電図を判読した。ケント束が右にある場合は、右室が早く興奮するため結果として左脚ブロックパターン(この場合はV1・V2のrSパターンが特徴)となる。逆にケント束が左にある場合は、右脚ブロックパターンとなる。同じ右室にある場合においてもその位置が三尖弁の自由壁側上方にあるか下方にあるか、また中隔側にあるかが心電図により推測できる。上方にあるか下方にあるかはII・III誘導のデルタ波の軸をみることにより判明し、中隔側にあ

るかはV3のQRS波をみることにより判明する。すなわち下方にある程デルタ波は陰性となり、中隔側にあるとV3のR波が高くなる（自由壁の場合は、V3もrSパターン）ことが知られている。

（文責：橋本 久仁彦）



11月度学術講演会のお知らせ

11月の浪速区医師会講演会の内容は下記のとおりです。

多数の先生方の参加をお待ちいたします。

日時：11月19日〈土〉午後2時～

場所：浪速区医師会 会議室

演題：「WPW症候群と不整脈源性右室心筋症」

講師：独立行政法人

国立循環器病研究センター

心臓血管内科

医 長 相原 直彦 先生

本勉強会は、大阪府医師会生涯研修システムの対象となっておりますので、生涯教育チケットの持参をお願いいたします。

大阪府医師会医学会総会 一般演題(パネル展示)

月 日 11月6日〈日〉

場 所 大阪府医師会 2階

時 間 午前9時30分～12時

※本会発表時間は9時50分～10時

講 者 久保田泰弘

講 演 地域医療ネットワーク「ブルーカード」システム

第28回 浪速区健康展

月 日 11月12日〈土〉

場 所 浪速スポーツセンター 3階

浪速区難波中3-8-8

時 間 午後1時30分～3時30分

来場者の健康相談を行ないます。

社会保険講習会

月 日 11月30日〈水〉

場 所 浪速区医師会

時 間 午後2時～4時

演 題 最近の指導・監査の動向と保険診療、
医療における人権問題について
～審査上の取扱いを含めて～



浪速区医師会 活動の伝言板

11月の各業務の出務予定は次のとおりです。
ご協力のほどよろしくお願いいたします。

三 歳 児 健 診

●保健福祉センター

11月24日〈木〉 午後1時40分～3時30分

眼 科 吉野 成泰

耳鼻科 川田喜代子

B C G 接 種

●保健福祉センター

11月17日〈木〉 午後2時～3時30分

工藤俊次郎

本田 秀明

大阪市高齢者健康医療相談

●老人福祉センター 午後2時～4時

11月1日〈火〉 川合 秀治

11月8日〈火〉 桧山 寛市

11月11日〈金〉 池田 秀博

11月15日〈火〉 中山 博文

11月18日〈金〉 入野 宏昭

11月22日〈火〉 金子 良恵

11月25日〈金〉 山田 郁子

11月29日〈火〉 大塚 治

産業医健康相談窓口

●浪速区医師会 午後2時～4時

11月1日〈火〉 菊井 祥二

11月18日〈金〉 北村 栄作

急病診療所出務

●中央急病診療所

11月21日〈月〉 午後10時～翌午前6時

中山 博文

浪速区医師会クラブ活動案内

各クラブ活動は下記日程で行っております。
多数のみなさま方の参加をお待ちしております。
(ときに時間変更される場合もありますので、各部代表まで連絡をお願いいたします。)

囲 碁 部 毎月第1・3・5(土)
(川田信) pm5:00～





あとがき

H.H.

10月16日(日曜日) 恒例の浪速区医師会旅行に参加しました。秋空のなか、京都まで日帰りのバス旅行でした。医師会での会議や講演会ではできない雑談や情報交換が、バスの中、そぞろ歩きの観光中にでき、楽しい一日を過ごす事ができました。

全国に散らばる会社の支社を産業医として見回っておられるI先生が、そのご苦労の中で、予防接種についても言及されました。都会でも予防接種が減っているようだが、地方へ行くと、希望しない人たちが非常に多いとのことでした。人口密度の低い地域では、予防接種の必要性が少ないのかな、と愚考しましたが、間違いでしょうね？

このように、予防接種の知識が素人以下の私ですので、子供や孫の接種状況を全く知りません。巻頭言士が記載されているヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン(プレベナー)についても初めて聞く言葉でした。

インターネットで調べ、概要を知ることができました。

実は私の父はポリオで下肢の弛緩麻痺があり、そのため徴兵されず、私が4歳になるまで一緒に優雅な生活をすることができました。

しかし軍隊に行かなかったのが逆に災いとなり、広島の実家で原爆を受け、終戦の日に亡くなりました。当時はもちろんポリオワクチンはなかったのですが、ワクチンがあったら、父をはじめ、私の家族の生き様は、現在と全く異なった様相を呈しているに違いありません。

巻頭言から、このような物思いにふけりました。

浪速区医師会の小児科の先生方は、いつも予防接種事業に活躍されている事は良く知っ

ています。今後もよろしくお願いいたします。



目次	ページ
巻頭言	
細菌性髄膜炎の予防ワクチンについて	
塩見 正司	1
理事会報告(9月開催)	2
9月学術講演会報告	橋本久仁彦 6
11月学術講演会のお知らせ	8
浪速区医師会活動の伝言板	9
あとがき	10

【区医だより】

発行者 佐久間靖博

編集者 中村泰久 橋村直隆

印刷所 株式会社 サ ビ